

移民政策：日米における大学生の意見
クリスチャン・マックグロスリンクレイソン

Slide 1

はじめまして、私はクリスチャン・マックグロスリンクレイソンと申します。私の研究のタイトルは移民政策：日米における大学生の意見です。

Slide 2

これが発表の概要^{がいよう}です。

Slide 3

なぜこの研究課題にしたかといいますと、私が岡山大学に留学していた時、移民政策を勉強しました。そこで移民政策が継続的に変化している事に気がつき日米の学生が移民政策についてどんな知識を持っているか、また、どのような意見を持っているかをもっと知りたいと思ったからです。

Slide 4

研究質問は次の2つです。一つ目：日米の大学生は移民政策についてどのように認識しているか。二つ目：大学生は移民政策についてどんな意見を持っているか。また、何が大学生に影響を与えているのか。です。

Slide 5

ではこの研究の背景^{はいけい}について少しお話します。まず移民政策の歴史^{れきし}について述べ、それらの現在^{げんざい}の移民政策、移民政策の教育^{きょういく}の現状^{げんじょう}、また移民^{たい}に対する認識^{にんしき}がどこから来^きているのかについてお話します。

Slide 6

まず始めに、移民政策の歴史^{れきし}についてお話します。日本でもアメリカでも移民政策は18世紀^{せいき}に始まりました。日本では1853年にマシュー・ペリー海軍代将^{かいぐんだいしょう}が日本での開国^{かいこく}を要求^{ようきゅう}した時に始まり、アメリカでは、奴隷^{どれい}の輸入^{ゆにゅう}を禁^{きん}じた時です。第1次世界大戦^{たいせん}の時、日本でもアメリカでも移民が増加^{ぞうか}しました。日本の場合は重労働^{ばあい じゅうろうどう}の要員^{よういん}として入国^{にゅうこく}を認め^{みと}たからです。またアメリカに大量^{たいりょう}の移民が移住^{いじゅう}したため、新たな規制^{きせい}と入国^{にゅうこく}のための手続き^{てつづ}が必要^{ひつよう}になったからです。

Slide 7

第2次世界大戦^{じせかいたいせん}の時には日本でもアメリカでも新^{あた}しい移民政策がしかれました。日本の

ばあい がいこくじんろうどうしゃ あつか
場合は外国人労働者とその家族は移民として扱われたからです。また、アメリカの

きかてつづ こつきょうかんり きょうせいしゅうようじょ しもん
場合は移民および帰化手続きとして国境管理や強制収容所のために指紋

にんしょう かいし じせかいたいせんご きそく
認証サービスを開始したからです。第2次世界大戦後、またさらに新しい移民への規則

ができました。日本では1952年に、アメリカの移民法を基に出入国管理及び難民

にんていほう もう
認定法を設けました。また、アメリカでは1954年に「オペレーション・ウェットバツ

く」でメキシコの出稼ぎ労働者を不法に拘束し、強制送還したことがあげられま
す。

Slide 8

げんざい しゅつにゆうこくかんりおよびなんみんにんていほう
では、現在の移民政策はどうでしょうか。日本では「出入国管理及び難民認定法」

きかく いみん
という政策があり、移民または難民として入国できる規格があります。アメリカでは「移民

かいかく かんりほう きじゆん
改革と管理法」があり、移民がアメリカに入る事ができる基準があります。どちらの

に きよか
政策も似ていますが、入国する事が許可される移民と、されない移民への違いがあります。

Slide 9

めんじょきょうてい ばあい めんじょ かくくにぐに きかん
では、ビザ免除協定をみてみましょう。日本の場合、免除は各国々によって期間

がことなります。例えば、アメリカ人は90日間訪問する事ができますが、インドネシ

ア人は15日間しか訪問する事ができません。アメリカの場合は、ビザ免除プログラム

にきょうていをむすんだ、どの国の人々も、ビザ無しで、同じ滞在期間入国する事が
できます。

Slide 10

おこな
移民政策に関する教育は、日本とアメリカではどのように行われているのでしょうか。

おこな
日本の場合は移民政策に関する教育は行われていません。しかし、アメリカの場合はあ

るていど移民政策に関する教育は行われており、社会問題について議論する時間も、取り入

ひつよう しりょう きょう
れられています。また、教育に必要な資料は移民政策センターやアメリカの移民協

ぎかい とお りよう
議会を通して利用ができます。

Slide 11

では、どのように移民、移民政策に関する認識が形成されるのでしょうか。日本でもアメリカでもニュース等での議論が行われており、それを通して理解するという傾向にあります。日本の場合は移民の数が増えると、労働数は増えるが、その分、日本人の仕事がへるのではないかという懸念や、移民により、たしかに単一民族から多民族化はするものの、日本はやはり、日本人だけの国であるべきではないかという意見、そして移民がふえるとツーリズム等、財政面での利益があるなど、論議されています。アメリカでは移民政策に関しては世界でもリードしている国であり、メキシコの国境の壁を建設する事に関する議論や、シリア人の難民が入国する事を許可するか、しないか等、論議されています。日本では、家族内で政治問題や移民などの社会問題については、めったに話す事がないのに対し、アメリカではよく家庭内でも話されるようです。

Slide 12

また、ソーシャル・ネットワークが大きく移民政策の認識に影響しています。ソーシャルネットワークをとおして様々な国の人と、簡単につながる事ができ、色々な意見やアイデアを交換できます。例えば、ハッシュタグを使い特定の社会問題に注目をひかせることもできます。ただこれは、日本よりアメリカの方がさかんなようです。ソーシャル・ネットワークでは、友達からのプレッシャーもあり、同じ意見をきょうゆうする事によって仲間意識が強くなるようです。また、移民に関しては親しい友人以外の友達同士で移民政策の経験を話す事はまれなようです。

Slide 13

これが研究方法です。この研究に参加した大学生は全部で 66 人で、そのうち 27 人がアメ

リカの大学生、39 名が日本の大学生でした。アンケート調査^{ちようさ}はオンラインで行いました。

Slide 14

では、研究質問一の結果をお話します。研究質問一は「日米の大学生は移民政策についてどのように認識^{にんしき}しているか」です。

Slide 15

「移民と難民^{ぼうめいしゃ}と亡命者の違いを知っていますか」という質問に、日本人の 82%とアメリカ人の 63%が違いを知っていると答えました。

Slide 16

「出入国管理及び難民認定法^{しゅつにゆうこくかんりおよなんみんにんていほう}」がどんな法律^{ほうりつ}か知っていますかという質問に、日本人の 20%とアメリカ人の 26%が法律^{ほうりつ}を知っていると答えました。

Slide 17

「ビザ免除措置^{めんじょそち}」とはどんなものか知っていますかと言う質問に、日本人の 31%とアメリカ人の 48%が「ビザ免除措置^{めんじょそち}」を知っていると答えました。

Slide 18

「ビザ」とは何か知っていますかという質問には、アメリカ人は皆知^{みな}っていると答えましたが、日本人の 15%があまり知らないと答えました。

Slide 19

それでは、ここで研究質問一の結果^{けっか}をまとめます。アメリカの大学生と日本の大学生は移民と難民^{ぼうめいしゃ}と亡命者の違いを知っている人は多いですが、アメリカの大学生も日本の大学生も移民や難民^{たい}に対する政策や、法律^{ほうりつ}はあまり知らないと言う事が分かりました。

Slide 20

では次^{つぎ}に、研究質問二の結果^{けっか}です。質問は「大学生は移民政策についてどんな意見を持っているか。また、何が大学生に影響を与えているのか」です。

Slide 21

もしあなたが移民政策について疑問がある時、どのように調べ^{しら}ますかという質問に、日本人もアメリカ人も官庁^{かんちょう}などの行政機構^{ぎょうせいきこう}またはウェブサイトが一位でした。

Slide 22

「友達があなたの国に移民したいと考えています。あなたがその手助けをする際、最初に、どのように情報を調べますか」という質問には、アメリカ人は全員、官庁などの行政機構またはウェブサイトと答えたのに対し、日本人の場合は74%が官庁などの行政機構またはウェブサイトと答え、その他には家族、ソーシャルネットワーク、大学の先生にも相談することが分かりました。

Slide 23

現在の国の移民政策が「労働力人口を増やす」という事については、アメリカ人は71%が労働力人口を増やす事に賛成していますが、日本人の場合は56%とアメリカより低いです。

Slide 24

「特定の国からの移民の数は制限させるべきである」かどうかについては、日本人は26%、アメリカ人は77%が制限するべきではないと答えました。分からないと答えた人は日本人の方がアメリカ人より多かったです。

Slide 25

「宗教的背景で移民の受け入れを拒否すべきではない」という事に関してはアメリカの97%が拒否するべきではないという強い姿勢がみられたのに対し、日本はその逆で13%の人だけが拒否するべきではないとする、全く逆な姿勢があきらかになりました。

Slide 26

移民政策についてどこで一番学んだかという質問には、日本人はニュースが一番で、次に大学の先生、アメリカ人はニュース、家族、大学の先生、ソーシャルネットワーク等があげられました。

Slide 27

「私の移民政策の意見は下記の項目に影響をうけやすい」という質問には、面白い結果がでました。日本人の場合は大学の先生の意見が一番影響があり、その次にソーシャルネ

ネットワークがあげられました。一方、アメリカの場合は特に影響されるものはなく、しいていえばソーシャルネットワークに影響されやすいことが分かりました。

Slide 28

研究質問二の調査結果のまとめです。両国の学生は政策や法律に関して調べる際は、官庁などの行政機構またはウェブサイトを利用します。また、移民政策については日本の学生は大学の先生や、ソーシャルネットワーク、ニュースから影響されますが、アメリカの学生はニュースや、ソーシャルネットワークから影響されます。さらにアメリカの学生は宗教で移民の受け入れを拒否すべきではないという姿勢が強いですが、日本の学生はこの考えかたを支持していない事が分かりました。

Slide 29

では最後に結論と考察をお話します。この調査では、両国の学生はあまり移民政策とビザ免除措置について知らない事が明らかになったので、高校などのカリキュラムにいて、意識を高める必要があると思います。また、日本とアメリカの学生はソーシャルネットワークや、ニュース、家族や、友達から影響を受けるため、正しい情報の入手方法と判断ができる教育が大事になると思います。さらに、アメリカの大学生は、民族や宗教を基にした政策をしてはいけないという姿勢が強いですが、この点に関しては日本での意識が低いです。それは、日本は単一民族であるからかもしれません。グローバル社会の今、日本での多文化社会へのさらなる理解が大事になると思います。

Slide 30

研究の限界点として過半数のアメリカの大学生はカリフォルニア州立大学の学生で、また参加者が少人数だったので、結果を一般化する事は難しいかもしれません。移民政策は、繊細な社会問題なので、日本の大学生とアメリカの大学生がこの政策について議論する事は難しいと思っています。つまり、いくつかの問題には本音で答えて

くれたかどうか、はわかりません。^{しょうらい} 将来の研究として、アメリカと日本を^{はばひろ}幅広く、より多くの人に参加してもらいたいと思います。また、様々なグループの^{いけん ひかく}意見も比較してみたいです。

Slide 31

これがこの研究の^{さんこうぶんけん}参考文献です。

Slide 34

これがメディアリソースです。

Slide 35

この研究^{かん}に関しては^{さいとう}齋藤-^{よしこきょうじゆ}アボット佳子教授と、^{せきねしげこきょうじゆ}関根繁子教授^{しどう}のご指導をたまわり、^{かんしゃいた}感謝致します。また、^{どうきゅうせい}同級生と友達、^{とく}特に、平井絢音さん、角山 怜祐君、三宅 香菜子さん、どうもありがとうございました。